

研究部通信



第 1 号

平成29年
4月17日

いよいよ平成29年度がスタートしました。入学式での新入生の表情や姿から、どの子どもこの瞬間がいつもとは違う何か特別な一日、時間だということを感じているように見えました。人は誰もが自らの人生を生きており、その道筋の過程にはいくつかの大切な節目があります。節目を迎える際には期待や不安が入り混じるものですが、人として大きく成長していくためには、幾つもの節目を経験し、経験を糧として成長し続けていくことが重要だと考えます。

入学や進級による子ども達のワクワクドキドキした気持ちや態度がこの先の成長に繋がる節目のひとつとなるように、まずは1学期、笑顔いっぱいの学級集団づくりを進めていきましょう。

「授業づくりの7つの視点について①」

研究部では、先生方の日々の授業づくりに役立てていただきたいと考え、「授業づくりの7つの視点」を提案しています。今回は、この中の①から③について、解説します。

- | | | | |
|----------|-------------------|-------------|------------|
| ①実態把握 | ②何が課題か（何を教えたいか） | ③教材探し | ④ねらい（を明確に） |
| ⑤展開を工夫する | ⑥子どもの主体性や協調性を引き出す | ⑦まとめ（を工夫する） | |

①実態把握

子どもの得意なことは何か、どんなことに興味・関心があるのか。将来の自分について「どうなりたい」「どうありたい」と思っているのか。支援を必要とする部分はどこなのか。認知や発達の状況はどうか等、子ども一人一人の実態を掴んでおくことが授業づくりの第一ステップです。

②何を教えたいか

個々の子どもの実態から見えてきた課題は何か、その課題の改善に向けて何を教えたいのかを明らかにすることが必要です。本校の年間指導計画には集団での指導を想定した1年間の単元（題材）の大まかな流れや目標が計画されていますが、子どもの実態は一人一人異なることから、個に応じた具体的な指導内容や指導目標、支援の方法等については個別に押さえておく必要があります。

③教材探し

子ども達に教えたいことを実現させるために、教材・教具の役割というのは大きいものです。本校は知的障がいのある子ども達が学んでいる学校ですので、「どんな教材を使えば子ども達が理解して主体的に取り組めるのか」とか「この子はこんなことに興味・関心があるから、こんな教材を使えば意欲的に取り組めるのではないか」等、子どもの実態に応じた教員の創意工夫が求められます。手作りの教材・教具等も当然有効ですが、教科書等も効果的に活用しながら指導に活かしましょう。

研究部メンバーです。一年間、どうぞよろしくお願いします。

研究部長 田中秀明 研究副部長 倉田利江子
小学部 ◎亀谷、伊藤、倉光、沖野
中学部 ◎大野原、木下和、福安
高等部 ◎白水、酒井、石原
訪問学級 ◎佐々木

